

昭和30年6月、天理高等学校第二部に農事部生徒の寄宿舍である西南寮が開設された。それに伴い、練習も西南寮内相撲場で行われるようになった。第6回県民体育大会で団体優勝。近畿大会、第33回全国高校相撲選手権大会(全国大会)に出場する。第10回国民体育大会(国体)神奈川大会に水邦夫氏が出場。

昭和31年は西日本選抜相撲選手権大会、第34回全国高校相撲選手権大会に出場した。奈良県春季相撲大会で団体優勝、前島章雄氏が個人優勝。奈良県高校体育大会では団体優勝をする。前島氏は「部活動として相撲部に入ったのは、好きで入った訳ではなく、農事部において開かれた新入生歓迎相撲大会を通してきっかけを得た」と語っている。また、「一番の入部の目的は、ご飯を腹一杯食べられることだった。当時はアルミの食器で盛りご飯一杯だったが相撲部では時々ごちそうが出たりもした。食べ盛りの生徒たちにとって、常に空腹感との闘いであつた」と回想している。当時の練習時間は朝食前と作業終了後の登校前の2回。当時、県大会では「常勝天理」であり、4年間注目をされていたことが時には励みになり、また重荷を感じつつ全うしたそうである。

昭和33年、大相撲の清水川関一行に稽古をつけてもらう。昭和34年は4年ぶりに近畿大会へ出場。昭和37年には高校相撲金沢大会に出場(柴田直臣氏、下村義信氏、大國重孝氏)。第40回全国大会個人戦に下村氏が出場。下村氏は全国高校相撲東西対抗大会に西軍代表として出場している。翌38年、奈良県民体育大会、金沢大会予選ともに優勝。高校相撲金沢大会に出場(大國氏、下村氏、竜崎正志氏)。第41回全国大会個人に下村氏が出場。この頃、県内の大会は



左：第47回高校相撲金沢大会パンフレット
昭和38年5月26日
石川県金沢市 県営卯辰山相撲場
(下村義信氏所蔵)



第47回高校相撲金沢大会団体戦
右が大國重孝氏(天理高等学校第二部 昭和38年度卒)
昭和38年5月26日 石川県金沢市 県営卯辰山相撲場

大國氏、下村氏が出場する団体戦は負け知らずであつた。天理教体育大会でも2人を擁するチームが2年連続で優勝をしている。大國氏に当時の相撲部の話を伺うと、当時の寮の相撲大会は各部屋(各学年2人ずつ計8人)から3人ずつ選抜して出場する部屋別対抗で行われ、その中から強い者や体格のいい者を先輩たちが相撲部にひっぱっていたようである。また、農事部の生徒(西南寮)は全員ラグビーが必修であり、午後2時頃に農作業を終えたらラグビーの練習をし、5時頃から学校の授業が始まったようである。そのため、相撲の練習は早朝から行っていた。

このような時間的、体力的に厳しい中、大國氏、下村氏はラグビーの全国大会にも出場している。ラグビーの全国大会で定時制の学校として初めて天理高校第二部が出場することとなり、当時の新聞がメンバー全員を紹介した。その中で「大國、下村は奈良県高校相撲界でトップクラスの選手で、異色種である」と紹介している。さらに下村氏は柔道でも全国大会に出場している。全国大会に一人で3種目も出場した選手は後にも先にも現れないのではないだろうか。

昭和39年、西南寮の部屋割りが縦割りから各学年別部屋割りとなる。この頃から相撲部の過渡期となる。ラグビー部が全国大会に出場し、練習等にも力が入り、夜遅くまで練習があつた。相撲部の練習は朝5時30分起床、トイレ掃除の後5時45分から7時頃まで行い、部屋の掃除、食事が終わってから勤務先に出かけるという厳しいスケジュールであつた。そのため1年生まではよかつたが、2年生以降、練習に来ない生徒が増えるという問題が起き始めた。

昭和42年には西南寮主任が交代し永坂基次先生が就任。西南寮に新しい風が吹く。昭和43年、西南寮の1、2年生の半分、約30名と陽心寮の約30名が入れ替わり、どちらの寮ともいちれつ会生の男子寮として寄宿舍生活が行われるようになった。練習ができる土俵は学校にはなく、西南寮でしか練習はできなかつた。入れ替わった30名は公平にくじで決めたため、陽心寮に移った相撲部員は練習の場を失った。そのため、相撲部は存続の危機となった。相撲部をどうにかしようと、顧問の小池九八先生、西南寮に残った4年生の村川氏、陽心寮に移った2年生の工藤俊則氏らが学校で練習できるよう、奔走した。昭和44年2月、西南寮の建物が火災で焼失した東愛・愛静詰所に譲渡されることになったため、西南寮を閉鎖した。寮生は旧北寮旧館に移動したため、相撲部は土俵を完全に失った。しかしながら努力の甲斐があり学校内に新土俵が設置されることになった。西南寮農事部の相撲部から脱皮し、天理高校第二部の相撲部となった年であつた。また、他の部活との掛け持ちを禁止した年でもあつた。過渡期の混乱の中、宮崎理生氏が全国大会へ出場した。

[参考文献]

『荒木』第31号、天理高等学校第二部発行、昭和36年2月。
『天理高等学校百年史』第二部編、天理中学校・天理高等学校創立百周年記念事業実行委員会、平成20年9月。